

令和 4 年 6 月 14 日現在

機関番号：32401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18H01007

研究課題名(和文) インクルーシブアート教育論及び視覚障害等のためのメディア教材・カリキュラムの開発

研究課題名(英文) Inclusive arts education theory and media materials and curricula for the visually impaired and others.

研究代表者

茂木 一司 (Kazuji, Mogi)

跡見学園女子大学・文学部・教授

研究者番号：30145445

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,800,000円

研究成果の概要(和文)：見える／見えない／見えにくい子ども達がアートを基盤にして「共に学ぶ」共生社会構築を「インクルーシブアート教育／学習」(造語)と命名した。その学習の目的は子ども達のアクティブラーニングの促進であり、「分けない」をカリキュラム及び題材開発の基本理念として決定した。今までの視覚障害美術教育の触る／触らない(言葉・言語)、表現／鑑賞などの二項対立の問題点を解消し、新しい実践的なカリキュラム論・題材論を構築した。最終的な成果物として、『視覚障害のためのインクルーシブアート学習』基礎理論と教材開発』(ジアース教育新社、2021.12)発刊によってまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

教育のインクルーシブ化により減少する視覚障害児や1980年代以降盛んになった視覚障害アート／教育の(主に粘土造形による)実践研究の蓄積が主要な実践者の定年等によって急速に失われつつある中で、これまでの蓄積及び現在の実践研究を収集・整理し、インクルーシブ教育の時代のアート教育の役割を検討し、共生社会構築にはアート教育を基礎にすべしという理念をつくり、具体的なカリキュラム及びメディア教材開発を実施し、最終的に『視覚障害のためのインクルーシブアート学習』基礎理論と教材開発』にまとめた。本書は、世界でも類例をみない視覚障害美術教育の研究の基礎(出発点)になる重要な実績として評価できる。

研究成果の概要(英文)：The construction of a symbiotic society in which children who can see, cannot see or are difficult to see 'learn together' on the basis of art was named 'inclusive art education/learning' (a coined term). The aim of the study is to promote active learning among children, and 'no separation' was decided as the basic principle for the development of the curriculum and subject matter. The dichotomous problems of touch/no touch (language and language) and expression/appreciation in art education for the visually impaired were resolved, and a new practical curriculum and subject matter theory was developed. The final product was the publication of 'Inclusive Art Learning for the Visually Impaired: Basic Theory and Development of Teaching Materials '(Gears Kyoiku Shinsha, 2021.12).

研究分野：インクルーシブアート教育

キーワード：インクルーシブアート教育 視覚障害 ワークショップ 総合カリキュラム開発 教材開発 メディア教材

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

インクルーシブ教育の目的が障害者だけでなく、すべての人が豊かに学び、真の自由な共生社会を実現するものであれば、「差異や多様性を活かし、想像的創造的かつ主体的な学び」を旨とするアート/教育はその基礎になってもいいのではないか。それを「インクルーシブアート教育(学習)」(造語)と命名した。しかしながら、現実の障害を持つ人たちのアート教育(特別支援美術教育)は研究層の薄さによって専門性の構築ができずに放置され、特に視覚障害美術教育においては通学児童生徒の減少や1990年代に起こった視覚障害美術教育ブーム時に熱心にこの分野に取り組んだ教師達が定年を迎え、図工美術の授業時間数の減少に相まって、急速にその専門性が喪失される現状がある。また、視覚情報(作品写真)を中心に編纂される図工美術教科書は全盲児に対応しておらず、普通教育においては一種の差別状態が放置されている。

このような現状を確認し、また障害児教育もしくは特別支援教育が潜在的に持つ技能的で実用主義の個別化細分化した指導、すなわち「支援しすぎ」や「導かれた成功」ではなく、これからの共生社会の構築に向けては障害を持つ子ども達が最大限に自己の能力を発揮し、自立して生きるための主体的で自由なアートの学びの必要性が緊要な課題となっている。

私たちはアートを単なる感覚的な造形的な操作ではなく、プロセスの中で起こる様々な出来事全体を人間の根源的な能動的な活動である「生きるための身体技法」と捉える。つまり、もともと「アートは見えない」ものであり、その教育とは「見えないものを見えるようにし、その背後にある広大な無意識の世界を豊かに耕す活動」であると考え。また、障害のある者となない者が共に学ぶ仕組みをつくるインクルーシブ教育においては、障害を持つ子どものアートによる表現やコミュニケーションはむしろ普通教育の中でダイナミズムをつくり出す原動力となり、硬直化した学校をはじめとする既存の教育をアンラーン(学びほぐし)する。

このような大きな理念に基づき、本研究は今回盲学校で急増する重度・重複障害を含めて、コロナ渦の中のインクルーシブ時代の美術教育を考慮し、従来からある盲教育の基本である「触る対面学習」を基本としながらも、視覚障害者が使いやすいICTやオンライン学習へ積極的にアプローチし、アクセシビリティの改善だけに偏るような一方的な障害支援ではなく、障害当事者のもつ多様な視点を活かした実践的なメディア×アート題材開発の必要性を確認する。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、視覚障害や同重度・重複障害等を対象とした「インクルーシブアート学習」のためのプロジェクト型・ワークショップ型学習の理論構築【目的1】とアナログ+デジタルのメディア題材及び支援のための教材やデバイスを開発する【目的2】。

見えない/見えにくい/見える人が「ともに学ぶ」ためには、アートが見えない(触れない)ものを見えるようにする活動で、アート学習をモノ(作品)づくりだけでなく、「モノとコトづくり」の往還学習に変更する。そのために、アートの鑑賞(認知・理解)と表現(探求)を分けない、

西洋・日本の現代アート史からアートのエッセンスを抽出し、障害当事者との協働による多感覚を刺激するメディア題材を開発し、アートを通した障害理解教育を推進する。

## 3. 研究の方法

### 【目的1】

「インクルーシブアート教育(アートによるインクルーシブな協同学習論)の基礎理論の構築」は視覚障害を中心としながら、学校教育とその後の社会福祉との連携を図るために、「文化庁と大学・研究機関等との共同研究事業・研究課題:文化芸術による社会包摂の在り方」(2017~2019)による「文化芸術による社会包摂の評価手法・ガイドライン構築」研究や厚生労働省の「障害者芸術普及支援事業」(2017~)等との連携・接合を図りながら理論研究を進め、学校教育を中心とながらも障害者が共生社会を生き抜くためにアート/教育に何ができるのかを明らかにするための社会制度論及び人間論としての総合的な教育論の構築を目指して、文献研究や実験研究を実施した。

同時に日本の視覚障害美術教育の現状を把握するために、日本型インクルーシブ教育システムの導入以降の日本の盲学校の更なる縮小化についての現地調査を行った。

### 【目的2】

視覚障害児等の主体的学びを実現するメディア教材・カリキュラムの開発・実践は、「アートは見えない」「アート教育とは見えないものを見えるようにし、その背後に在る広大な無意識の世界を耕すこと」と定義し、現代アートの思想史を分析しながら、そのエッセンスの抽出し、アートがモノ(作品)からコト(出来事・コンセプト)へ移行もしくは往復(運動)する存在であることを踏まえ、20世紀美術の題材とメディア教材の開発を実施した。

## 4. 研究成果

### 【全体総括】

研究目的とする「視覚障害のためのインクルーシブアート教育システム(アートによるインク

「インクルーシブな協同学習論」の基礎理論の構築」のための理論研究と視覚障害児等の主体的学びを実現するメディア教材・カリキュラムの開発・実践は、『視覚障害のためのインクルーシブアート学習:基礎理論と教材開発』(ジヤース教育新社、2021.12) 発刊によって、現時点での本研究の調査及び実践の成果をまとめることができ、【目的1・2】は概ね達成された。研究層の絶対数が少ない視覚障害美術教育の領域ではこれまでまとめられた研究の蓄積はなく、本書は世界初の成果となる。世界的な教育制度のインクルーシブ化に伴い、視覚障害特別支援学校が激減し、それに伴う同分野の研究者の減少と専門的知識・技能の急速な喪失に伴って、データのアーカイブ化の必要性が喫緊であった。本書の成果は、インクルーシブ教育推進に対応できる多様性や差異を受容しやすいアートの学びの活用を基盤に、見える/見えない/見えにくい子どももすべてが共に学べるシステムを考え、今後の共生社会構築のための基礎を築こうとした点にある。「インクルーシブ教育が障害者を含むすべての人が豊かに学び、真の自由な共生社会を実現するものであれば、『アート/教育は共生社会の基礎になるべきではないか』。そんな主張を『インクルーシブアート教育』(造語)と名付け」(同書、p.11) 本研究の理念とし、単なる机上の研究ではなく運動のスローガンとして今後の展開を期している。本書では、インクルーシブアート学習の基礎理論とさまざまなメディアを使った実践的な教材開発(盲学校の実際の教材事例の収集を含む)、視覚障害美術教育の歴史年表、同基礎文献の整備などを行った。

#### 【研究の推移と具体的な研究成果】

視覚障害美術教育は古くは盲児の粘土造形実践(福来四郎や西村陽平、山城見信等)によって、社会的な認知が進み、「触る教育」がその主流とみなされてきたが、近年国連「障害者権利条約」の批准によるインクルーシブな社会への希求が障害者教育全体を後押しし、本領域では美術館の社会との連携=教育普及機能の強化による「対話型鑑賞」の普及によって、「触らない(鑑賞)教育」の流行があり、これが今視覚障害美術教育の在り方に大きな変化をもたらしている現状を分析した。

本研究は、学校及び継続教育としての学校外の教育=生涯学習として「インクルーシブアート教育」を確立するために、「触る/触らない」「見える/見えない/見えにくい」を超えた、大きな美術教育の理念とそれを具体化するためにカリキュラム・教材開発を進めることとした。

2018・2019年度の成果は、盲学校(群馬、宮城、筑波大学附属等)の調査からインクルーシブ化が発展途上にあり、視覚特別支援(盲)学校の児童生徒数の減少による蓄積されてきた本分野の教育の専門性の喪失が進みつつある現状を分析した。一方で、1977年からフルインクルージョンを推進するイタリア視覚障害美術教育の調査(2018.9)において、同国が財政を筆頭に様々な問題点を抱えながらも、「共に学び、共に生きる」共生社会理念の社会的定着化を進め、インクルーシブを普通とする社会マインドをつくり、イタリア最大のウフィッツ美術館においてさえも予約なしで視覚障害者が美術鑑賞に参加できるシステムを持つなどの組織的なアクセシビリティへの取り組みの実現を確認した。

これらと平行して、理論研究では「インクルーシブアート教育(アートによるインクルーシブな協同学習論)の基礎理論の構築」【目的1】では、文化庁との共同研究「文化芸術による社会包摂型度の評価手法・ガイドラインの構築」と連携し、アートが共生社会構築の基礎となるべきという理論的枠組みの構築を進め、成果の客観性を明示するために、研究者、アーティスト、障害当事者/支援者等がプロジェクトの企画段階から関わる参加型評価等のプロジェクト評価の実装に向けた実験を前橋市内の障害者福祉事業所(NPO法人「麦わら屋」)で実施し、アートが地域社会を基盤とした新しい地域包括ケアシステムの中心に位置づけられる可能性について提案した([https://www.bunka.go.jp/tokei\\_hakusho\\_shuppan/tokeichosa/1416056.html](https://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/1416056.html))。

視覚障害児等が共生社会で活躍する主体的学びを実現するメディア教材・カリキュラムの開発・実践【目的2】では、「見える/見えない/見えにくい」を越境する題材開発を中学校美術科教育の題材を元に研究を開始し、現代美術・アートの変容、つまりモノからコト(出来事、コンセプト)へ変わるアートをどのように受容・理解するのか、「触る」学習と「触らないこと」による学習を融合する題材開発、の2点を基本コンセプトと設定し研究を進めた。

モノ(作品)からコト(出来事・コンセプト)へ移行するアートとはつまり、現代美術史のエッセンス(アートとは何か)を分析・抽出することであり、題材化・教材開発を以下のようなプロセスで実施した。

[2018年度]

・20世紀初頭のキュビズムの教材化では、多視点というコンセプトが視覚障害の多感覚との概念的共通性を見だし、パブロ・ピカソ(1881-193)の青年期の自画像題材・教材を開発した。題材は「分けない=題材のインクルーシブ化」という理念に基づき、鑑賞+制作の両方の性質を持つプロジェクト型題材として制作した。最初に触る教材開発をし(図1)、触る鑑賞を実施し(図2)、次に線画の立体コピーを補助的に使用し対話型鑑賞を実施した。そして、次に制作をした。結果的に鑑賞し、模刻ではなく創造的な作品制作ができた(図3)。



図1 左から、ピカソ「自画像」1907の元絵・段ボール紙で制作した積層・石膏で制作したレリーフ・立体コピー  
( 段ボールと石膏像は梶原千恵氏制作)



図2 立体コピーとレリーフを触察しながら  
対話による鑑賞学習をする場面



図3 見えにくい生徒と見えない(先天盲)の生徒  
作品(右は梅干しの入ったおにぎりを食べている自  
分。ピカソの自画像の再現制作ではない。)

〔2019年度〕

・マルセル・デュシャン(1887-1968)の「泉 1917」の鑑賞題材・教材開発を実施した。平芳幸司(京都工芸繊維大学)の解釈を用いて、デュシャンを「遅れてきたキュビスト」と定義し、印象派以降の現代美術の様式(思考)をスクーリングできるように簡略化した「触れる教材」制作を実施し、印象派(ドットによる絵画)、キュビズム(2018年度参照)、動くキュビズム(マイブリッジの連続写真の立体コピー化と「階段を降りる裸婦 No.2」1912のパズル化等)、「泉」(実物の男性用便器)の順で触る鑑賞及び対話を実施した。参加者(全盲2名)は「見える人も美術がすべてわかるわけではない」ことをアート=コンセプトであることの鑑賞によって理解したことを、「すっきりした」という感想によって確認でき、「アートは見えない。見えるようにすること」という現代美術の主張を彼らが理解できることを本学習にとって明確にできた。

・全盲児の色彩教材を開発した。不要論もある分野であり、色彩の場当たりの指導を避けるために、視覚障害者が日常生活の中で色彩の概念的知識と実用的理解の一致が図れるように、遠回りではあるが、いわゆる三属性や色相環、色立体などの「色彩の基礎理論」の学習に焦点化して教材開発を進めた。制作した教材は、「色光の混色教材」「触れる12色相環(色料)」と「触る色立体」である。この特徴は混色の学習に色光の加法混色を用いたこと、補色(反対の色)を触覚で確認でき、実生活の中での色選びに役立つように教材開発を行ったことである。まだ未完成ではあるが、実験対象者にはおおむね好評であった。

その他の成果は省略(『視覚障害のためのインクルーシブアート学習』を参照のこと)。



多胡宏作



住中浩史作



図4 下からの色光(RGB)をカラートーク(機器)で読み取っている場面。RGBの重なった中心がW(白)。

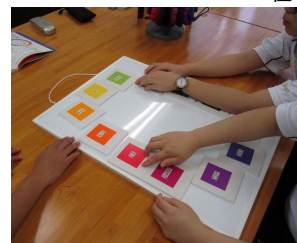


図5 上はPCCS(日本色研表色体系)を3D化したオブジェ。下は触れる12色相環(点字付き)

〔2020年度〕

・「絵本をつくろうワークショップ」の実践をした。目的はインクルーシブアート教材開発によって、見えない/見えにくい子ども達が主体的に学びやすくなることである。「絵本づくり」をインクルーシブアート題材化するポイントは、アートの教育をもの⇔場(環境)⇔人との複合的な「対話」、つまりコミュニケーション学習の場にするることである。そのための絵本づくりの具体的な学習目的は、a.絵本制作をとおして、触覚に着目した造形表現を楽しむ、b.触覚と言葉の往還をしながら自分の表現の幅を広げる、c.異年齢との協同の学びの場を持つ、に設定した。基本的な学習のポイントは、学びの総合化=ワークショップ(型学習)化であり、子ども同士が連携した「共有しケアし合うコミュニティの場づくり」である。他には、素材(材料)が教え、友人同士の言葉が補完する「分けないシステム」の発動である。また、今回のワークショップは素材遊びから導入し、イタリアの触る絵本『ざらざらちゃんシリーズ』の読み聞かせ、実際の制作、最後に発表会と鑑賞と制作、触ることと話す/聞くことをうまく混じり合うように組み立てた。

素材と触れ合いながら、ことばとおはなしを発見

# 絵本をつくろう

参加者 募集中

## ワークショップ



10/17 (土) 11/1 (日) 11/7 (土) 11/14 (土)

場所 手と目で見る教材ライブラリー (西早稲田)  
 時間 14時~16時 (全回同じ)  
 参加費 無料  
 参加対象 視覚障害児 (年長~小学生)  
 定員 4名  
 お申し込み・お問い合わせ メールアドレス

視覚障害児対象の絵本を作るワークショップです。作品の発表会もするよ！

※会場場所などの詳細は、お申し込み書に記載しております

主催：群馬大学教育学部美術教育講座 茂木一司研究室  
 手と目で見る教材ライブラリー

図 1



図 2

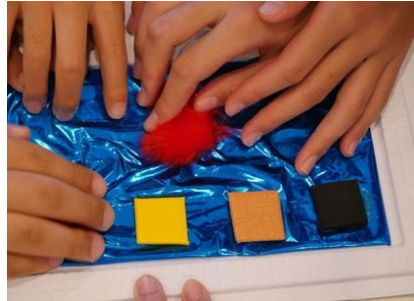


図 3



図 4



図 5

〔説明〕

図 1 は募集用チラシ、図 2 は素材体験をした後分類整理した素材、図 3 は『ざらざらちゃんプールにはいる』絵本をみんなで触って鑑賞した場面、図 4 は小 2 女子作「ドンちゃんとグリちゃんのお散歩」の発表会の場面及び制作した絵本(抜粋)、図 5 は 6 年男児制作の絵本薔薇の花びら(匂い)を貼ったページ(抜粋)

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計63件（うち査読付論文 25件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 22件）

1. 著者名 梶原千恵・竹丸草子・茂木一司	4. 巻 37
2. 論文標題 インクルーシブアート教育の広がり可能性 障害のある子どもが災害と向き合うためのアート教育実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 群馬大学教育実践研究	6. 最初と最後の頁 111-119
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 茂木一司・多胡宏・大内進	4. 巻 55
2. 論文標題 インクルーシブ教育時代の視覚障害アート教育をどうしたらいいのか - 見える / 見えない / 見えにくいを越境する教材開発をめざして -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編	6. 最初と最後の頁 11-24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 多胡宏・茂木一司	4. 巻 41
2. 論文標題 視覚障害児 (盲児) のための色彩教材・題材開発過程	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美術教育学	6. 最初と最後の頁 213-224
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡辺哲也・大内 進	4. 巻 Vol.57(2)
2. 論文標題 視覚障害教育における3Dプリンタ活用状況調査	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 弱視教育	6. 最初と最後の頁 15-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田史志	4. 巻 第57巻1号
2. 論文標題 特別支援学校における美術の指導困難に関する研究 - 美術の主任教員を対象とした質問紙調査より	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 特殊教育学研究	6. 最初と最後の頁 13-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.6033/tokkyou.57.13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Chihiro,Tetsuka., Maho, Sato., Koichi, Kasahara., Satoshi, Ikeda., Kazuji, Mogi	4. 巻 Vol.2
2. 論文標題 Diversity×Colour: Understanding Cultural Diversity	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Synnyt/Origins; Finnish Studies in Art Education	6. 最初と最後の頁 1311-1326
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 池田史志	4. 巻 なし
2. 論文標題 本人・支援者向けワークショップ体験編 身近な材料を使って立体作品を作ろう	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 平成30年度広島県障害者文化芸術活動支援事業活動報告書	6. 最初と最後の頁 20-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 広瀬浩二郎	4. 巻 26
2. 論文標題 「未開の知」に触れるー2020東京オリパラを迎える前にー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 KG人権ブックレット	6. 最初と最後の頁 77-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 広瀬浩二郎	4. 巻 170
2. 論文標題 芳一なし“耳”の話	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊民族学	6. 最初と最後の頁 70-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 広瀬浩二郎	4. 巻 0
2. 論文標題 「分・結・創」のボランティア論--「世話をする/世話になる」の関係を超えて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 にいがた 高校生ボランティア2019	6. 最初と最後の頁 13-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 布山タルト	4. 巻 20(1-2)
2. 論文標題 複数映像の並置提示による教育効果の検証-「動きの探求教育」へ向けて~	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アニメーション研究	6. 最初と最後の頁 3-16
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠原広一, 真木千壽子, 小室明久, 東南さゆり	4. 巻 第10号
2. 論文標題 幼児の造形活動における「もの」の役割と意味について:保育園てでのエピソード記述からの考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アートミーツケア学会 オンラインジャーナル	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 小室明久, 笠原広一	4. 巻 第7号
2. 論文標題 美術教育におけるモダンテクニックの特性：小学生を対象にしたワークショップの実践から子どもの表現の展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 初等教育カリキュラム研究	6. 最初と最後の頁 35-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koichi Kasahara.	4. 巻 なし
2. 論文標題 What Kind of Sociality Do Pre-service Teachers Discover Through Photograph Taking and Dialogue?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 SPECIAL ISSUE InSEA Congress 2018: Scientific and Social Interventions in Art Education	6. 最初と最後の頁 805-831
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koichi Kasahara	4. 巻 なし
2. 論文標題 Significant In/Sight Sustaining Myself: A/r/tographic Inquiry with Walking and Mapping Methodologies. Imaging Social Innovation: Expanding the Social Role of Art Education	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 2019 SAEK International Conference	6. 最初と最後の頁 188-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠原広一, 真木千壽子, 鉄矢悦朗, 加山総子, 大塚菜々美, 千野希帆子, 白神瑛子, 谷黒杏花, 肥前新菜	4. 巻 71
2. 論文標題 保育園と大学との連携造形活動による保育の質的深化の試み	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要芸術・スポーツ科学系	6. 最初と最後の頁 79-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小室明久, 笠原広一, 鉄矢悦朗, 真木千壽子, 加山総子	4. 巻 71
2. 論文標題 子ども理解を深める親子ワークショップの実践 : 学芸の森保育園での遊具を使ったワークショップ実践の考察に基づいて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要芸術・スポーツ科学系	6. 最初と最後の頁 69-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 手塚千尋	4. 巻 52
2. 論文標題 美術(アート)の領域固有性と協調的問題解決スキルに関する一考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 美術教育学研究	6. 最初と最後の頁 257-263
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤亜紗	4. 巻 vol.37 No.1・2合併号
2. 論文標題 視覚障害者の美術鑑賞: 触覚と言葉をと触覚をどう結びつけるか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 色彩教育	6. 最初と最後の頁 20-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 布山タルト	4. 巻 21(1)
2. 論文標題 中学校の美術教科書でアニメーション題材はどのように扱われてきたか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アニメーション研究	6. 最初と最後の頁 47-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 布山タルト	4. 巻 929
2. 論文標題 芸術と科学の重なるところ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育美術	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 茂木一司	4. 巻 911号
2. 論文標題 共生社会をめざす教育の中で美術教育はどうしたらいいのか? インクルーシブアート教育という提案	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育美術	6. 最初と最後の頁 14-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 茂木克浩、茂木一司	4. 巻 第54巻
2. 論文標題 中学校美術科教育におけるPBL学習の再検証ーインクルーシブデザインの視点からー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編	6. 最初と最後の頁 17-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 梶原千恵、茂木一司	4. 巻 36号
2. 論文標題 中学校美術部の活動におけるインクルーシブ教育の可能性ー被災地における美術部×地域×アーティストによるアートプロジェクトの実践ー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 群馬大学教育実践研究	6. 最初と最後の頁 73-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 茂木一司・梶原千恵・竹丸草子・住中浩史	4. 巻 53号
2. 論文標題 インクルーシブドロージング・ワークショップー開発プロセスと省察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本美術教育研究論集(公益社団法人日本美術教育連合)	6. 最初と最後の頁 155-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大内 進	4. 巻 Vol.39
2. 論文標題 「手と目でみる教材ライブラリー」の紹介	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 視覚障害教育ブックレット	6. 最初と最後の頁 8-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 広瀬浩二郎	4. 巻 なし
2. 論文標題 『無障礙博物館』概念：展示觸覺文化的意義和可能性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国立台湾歴史博物館編「文化平權在亞洲：博物館教育新趨勢國際論壇」	6. 最初と最後の頁 79-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 広瀬浩二郎	4. 巻 Vol.3
2. 論文標題 副音声と副触図	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 マンガミュージアム研究会編『マンガ展評論』	6. 最初と最後の頁 4-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊藤亜紗	4. 巻 電子版
2. 論文標題 スポーツは見えない	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本経済新聞	6. 最初と最後の頁 不明
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 布山タルト	4. 巻 19 (2)
2. 論文標題 小学校の図画工作教科書でアニメーション題材はどのように扱われてきたか	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 アニメーション研究	6. 最初と最後の頁 27-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田 史志	4. 巻 911号
2. 論文標題 美術科教育の射程とは 特別支援学校の全国調査と重い障害の子供達の美術教育実践より	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育美術	6. 最初と最後の頁 20-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田 史志、高橋 智子、大江 登美子、北島 珠水、柴田 洋佑、池永 真義	4. 巻 第55巻5
2. 論文標題 インクルーシブ教育システムにおける美術(1) - 特別支援学校および卒業後の多様な実践事例の検討 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 特殊教育学研究	6. 最初と最後の頁 363-364
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠原広一	4. 巻 第70号
2. 論文標題 5th Conference on Arts-Based Research and Artistic ResearchにみるArts-Based Researchの国際的な研究動向	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系	6. 最初と最後の頁 45-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 笠原広一, 真木千壽子, 鉄矢悦朗, 小室明久, 塚本万里	4. 巻 第70号
2. 論文標題 造形活動を通した子ども理解の共有化に向けた基礎的知見の産出: 学芸の森保育園での連携造形活動と作品展の保育者と保護者のアンケート分析から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系	6. 最初と最後の頁 65-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 笠原広一, 真木千壽子, 小室明久, 東南さゆり	4. 巻 第10号
2. 論文標題 幼児の造形活動における「もの」の役割と意味について: 保育園での造形活動とエピソード記述からの考察	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アートミーツケア学会 オンラインジャーナル	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小室明久, 笠原広一	4. 巻 第7号
2. 論文標題 美術教育におけるモダンテクニックの特性: 小学生を対象にしたワークショップの実践から子どもの表現の展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 初等教育カリキュラム研究	6. 最初と最後の頁 35-145
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 手塚千尋	4. 巻 52号
2. 論文標題 美術（アート）の領域固有性と協調的問題解決スキルに関する一考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美術教育学研究	6. 最初と最後の頁 257-263
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Chihiro,Tetsuka., Maho, Sato., Koichi, Kasahara., Satoshi, Ikeda., Kazuji, Mogi	4. 巻 Vol.2
2. 論文標題 Diversity Colour : Understanding Cultural Diversity	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Synnyt/Origins; Finnish Studies in Art Education	6. 最初と最後の頁 1311-1326,
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 伊藤亜紗	4. 巻 vol.37 No.1・2合併号
2. 論文標題 視覚障害者の美術鑑賞：触覚と言葉をどう結びつけるか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 色彩教育	6. 最初と最後の頁 20-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田史志	4. 巻 第57巻1号
2. 論文標題 特別支援学校における美術の指導困難に関する研究 - 美術の主任教員を対象とした質問紙調査より	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 特殊教育研究	6. 最初と最後の頁 13-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.6033/tokkyou.57.13	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 池田史志	4. 巻 なし
2. 論文標題 本人・支援者向けワークショップ体験編 身近な材料を使って立体作品を作ろう	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 平成30年度広島県障害者文化芸術活動支援事業活動報告書	6. 最初と最後の頁 20-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 布山タルト	4. 巻 929
2. 論文標題 芸術と科学の重なるところ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 教育美術	6. 最初と最後の頁 18-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠原広一, 真木千壽子, 鉄悦朗, 加山総子, 大塚菜々美, 千野希帆子, 白神瑛子, 谷黒杏花, 肥前新菜	4. 巻 71
2. 論文標題 保育園と大学との連携造形活動による保育の質的深化の試み : 保育者・大学教員・大学院生・保護者の学び合いの実践構造について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要芸術・スポーツ科学系	6. 最初と最後の頁 79-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小室明久, 笠原広一, 鉄悦朗, 真木千壽子, 加山総子	4. 巻 71
2. 論文標題 子ども理解を深める親子ワークショップの実践 : 学芸の森保育園での遊具を使ったワークショップ実践の考察に基づいて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要芸術・スポーツ科学系	6. 最初と最後の頁 69-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 茂木一司、竹丸草子、大内進	4. 巻 20
2. 論文標題 視覚障害のためのインクルーシブアート教材開発の可能性:「絵本をつくろう」ワークショップの学習環境デザインがつくる関係性の学びの意味	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 跡見学園女子大学人文学フォーラム	6. 最初と最後の頁 171-188
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 茂木一司	4. 巻 57
2. 論文標題 絵画学習のワークショップ化に関する事例研究:絵が描けない人のためのインクルーシブ教育の方法論から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 跡見学園女子大学文学部紀要	6. 最初と最後の頁 139-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Koichi Kasahara, Satoshi Ikeda, Kayoko Komatsu, Toshio Ishii, Takashi Takao, Kazuji Mogi, Minoru Inoue, & Kaho Kakizaki	4. 巻 0
2. 論文標題 Invitation to Walking Inquiry Along the Kumano Kodo Pilgrimage Trails: An A/r/tographic Travelogue Re/braided with Walkers' Inquiries.	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 In Lasczik, A., Irwin R. L., Cutter-Mackenzie-Knowles, A., Rousell, D., & Lee, N. (Eds.). (2022). Walking with A/r/tography. Cham: Palgrave Macmillan.	6. 最初と最後の頁 59-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Kazuji Mogi	4. 巻 0
2. 論文標題 Walking Art to Kumano Kodo = Search for Proactive and Free Learning by the Adaptation of Individuals (Inner Journey) and Society (Experiment of Community) by Art Mediating the Spiritual World	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nicole Y.S. Lee, Rita L. Irwin (Ed.), ,Mapping A/r/tography: Exhibition Catalogue, InSEA 2019 World Congress. ,InSEA Publications	6. 最初と最後の頁 106-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24981/2020-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 茂木一司	4. 巻 0
2. 論文標題 「現代社会」における美術教育の位置付けとABR(ABR, ABER, a/r/t含む)の可能性:理論/実践のあわいを考える	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 笠原広一・茂木一司・池田史志・手塚千尋・他、アートベース・リサーチがひらく教育の実践と理論(ABRから始まる探究(1) 高等教育編)、学術研究出版	6. 最初と最後の頁 23-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 伊藤亜紗・砂連尾理・青木彬	4. 巻 74
2. 論文標題 ケアがひらく体と表現	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 美術手帖	6. 最初と最後の頁 82-89
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koichi Kasahara	4. 巻 0
2. 論文標題 What Arts-Based Research and A/r/tography Allow for Art Education in Teacher Training and Education in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Arts-Based Practices in Formal and Informal Education in Japan	6. 最初と最後の頁 46-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koichi Kasahara	4. 巻 0
2. 論文標題 Small Water Mirrors Reflecting the Experience of Walking the Kumano Kodo Pilgrimage Trails	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Mapping A/r/tography: Exhibition Catalogue, InSEA 2019 World Congress	6. 最初と最後の頁 106-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24981/2020-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Koichi Kasahara	4. 巻 0
2. 論文標題 Arts-Based Research and A/r/tography Practice in Teacher Training Course in Japan: Focusing on the Practices in the Post-Corona Era	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Korea Art Education Association	6. 最初と最後の頁 48-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠原広一、和久井智洋、池田晴介、小島菜緒子、齊藤諒、井上扇里	4. 巻 13
2. 論文標題 アートと言葉のワークショップ実践-オンライン・ワークショップを通じた可能性の探求-	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アートミーツケア学会オンラインジャーナル	6. 最初と最後の頁 51-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 布山タルト	4. 巻 957
2. 論文標題 アニメーションの実践に向けて	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 教育美術	6. 最初と最後の頁 12-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 布山タルト	4. 巻 12
2. 論文標題 アニメーション教育における動きの観察試論 スポーツ教育との接点を探る	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 LOOP映像メディア学	6. 最初と最後の頁 173-192
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 布山タルト	4. 巻 22(1)
2. 論文標題 高校の美術教科書でアニメーション題材はどのように扱われてきたか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アニメーション研究	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山城大督、中崎透、野田智子	4. 巻 0
2. 論文標題 Nadegata Instant Party「ホームステイホーム」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 展覧会「丸亀での現在」カタログ	6. 最初と最後の頁 58-79
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Satoshi Ikeda	4. 巻 10(1)
2. 論文標題 Cooperative learning through art-based activities by students with hearing disabilities studying abroad	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Special Education Research	6. 最初と最後の頁 19-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 横山由季、池田史志、若松昭彦	4. 巻 10
2. 論文標題 A/r/tographyによる知的障害のある児童の探究過程の考察:特別支援学級における図画工作科の実践より	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 初等教育カリキュラム研究	6. 最初と最後の頁 39-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 大内進	4. 巻 18
2. 論文標題 イタリアにおける2019-2020学校年度のインクルーシブ教育の動向	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日伊総合研究所所報	6. 最初と最後の頁 8-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 池田吏志、川尻博満、小川ひろみ、川口隆司、久保香織、鰐川華衣、児玉真樹子、竹林地毅	4. 巻 43
2. 論文標題 地方自治体・大学・NPOの連携による障害のある人・サポートする人の表現及び美術展覧会の鑑賞に関する実態調査	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 美術教育学	6. 最初と最後の頁 35-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 布山タルト	4. 巻 43
2. 論文標題 アニメーションの題材の複合的なねらいを解きほぐすIIー概念モデルを用いた歴史の変遷の分析ー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 美術教育学	6. 最初と最後の頁 189-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計179件（うち招待講演 86件 / うち国際学会 35件）

1. 発表者名 茂木一司、住中浩史、中平紀子
2. 発表標題 中学生が学校を美術館に変えた」出版記念・とがびアートプロジェクト+さくらびアートプロジェクト大同総会シンポジウム
3. 学会等名 とがび+さくらびアート大同窓会実行委員会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鈴木紗代、住中浩士、茂木一司
2. 発表標題 A表現 映像表現 6 Tubeー私の出張を動画で発信 -
3. 学会等名 第59回関東甲信越静地区造形教育研究大会群馬大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木一司、梶原千恵、竹丸草子、小田久美子、木村祐子、塩川岳
2. 発表標題 アート×プロジェクト×社会包摂×評価ー共創が起きる場と仕掛けとは？
3. 学会等名 第3回共創学会年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古川聖、藤井晴行、茂木一司
2. 発表標題 サウンドドローイング プロジェクト ー空間と”かたち”、空間になる、空間を演奏する
3. 学会等名 第3回共創学会年次大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大内 進
2. 発表標題 3Dプリンターを活用した触覚教材製作の現状と課題
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会自主シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大内 進
2. 発表標題 特別支援学校のセンター的機能の評価の在り方を考える - センターの機能の評価を積極的に実施している特別支援学校への実態調査を通して -
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会自主シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小澤至賢・大内進
2. 発表標題 スクールクラスターの構築に向けた特別支援学校の学校間マネジメントに関する研究
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会自主シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大内 進
2. 発表標題 イタリアにおけるフルインクルーシブ教育の推進と現状
3. 学会等名 星美学園短期大学日伊総合研究所研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大内 進、茂木一司
2. 発表標題 ウフィッツィ美術館における視覚障害者対応の改革取組
3. 学会等名 第28回 視覚障害リハビリテーション研究発表大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoshi Ikeda
2. 発表標題 Walking as a catalyst to create questions: Inquiry regarding tolerant inclusion
3. 学会等名 Mapping A/r/tography InSEA 2019 Exhibition (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoshi Ikeda
2. 発表標題 Eliminate boundaries: Inquiry regarding tolerant inclusion
3. 学会等名 Mapping A/r/tography InSEA 2019 Exhibition (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田史志
2. 発表標題 聴覚障害のある留学生とのアートを通じた交流プログラムの開発
3. 学会等名 日本特殊教育学会 第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹林地毅、池田史志、長津結一郎、北村成美、北島珠水
2. 発表標題 障害のある人の芸術活動 - 出会い・つながり・新しい価値の創造の現状と特別支援教育の課題
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会準備委員会企画シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 池田史志
2. 発表標題 障害者による文化芸術活動の推進に関する基本計画を読む
3. 学会等名 広島県あいサポートアート展特別イベントシンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田史志
2. 発表標題 障害のある方・障害のある方のアートをサポートされている方のための2019ワークショップ4 Discovery
3. 学会等名 令和元年度広島県障害者芸術文化活動支援事業（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田史志
2. 発表標題 あいサポートアート展ギャラリートーク
3. 学会等名 令和元年度広島県あいサポートアート展（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 広瀬浩二郎 半田こづえ 山本清龍 宇野晶 さかいひろこ 藤村俊 真下弥生 桑田知明 松山沙樹 岡本裕子 黒澤浩 鈴木康二 藤島美菜 堀江典子 原礼子
2. 発表標題 「合理的配慮」再考
3. 学会等名 公開シンポジウム「日本におけるユニバーサル・ミュージアムの現状と課題 2020オリパラを迎える前に」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 広瀬浩二郎
2. 発表標題 「合理的配慮」再考 - 2020オリパラを迎えるに当たって -
3. 学会等名 日本特殊教育学会大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 広瀬浩二郎
2. 発表標題 多様な人々の博物館利用 視覚障害者のアクセシビリティ向上を考える
3. 学会等名 龍山工芸館・大韓民国（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 広瀬浩二郎
2. 発表標題 The Universal Museum Makes a world without Borders
3. 学会等名 国際学会（ミシガン大学美術史学部）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 広瀬浩二郎
2. 発表標題 Significamce and Methods of the Tactile Culture Exhibition
3. 学会等名 国際学会（ミシガン州立大学博物館）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 小林俊介, 伊藤香, 高橋美紀, 井上七緒, 武田夏実, 工藤美月, 佐藤美咲, 張崎正裕, 石沢恵理, 笠原広一
2. 発表標題 造形・製作活動が育む力
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会第29回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koichi Kasahara
2. 発表標題 Significant In/Sight Sustaining Myself: A/r/tographic Inquiry with Walking and Mapping Methodologies. Imaging Social Innovation: Expanding the Social Role of Art Education
3. 学会等名 2019 SAEK International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koichi Kasahara
2. 発表標題 Walking in Koyasan the Holy Site: The Creation of Practices to Connect with Peace and Fate in Everyday Life.
3. 学会等名 The 2nd A/r/tography Asian Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koichi Kasahara, Chihiro Tetsuka, Maho Sato, Satoshi Ikeda, Kazuji Mogi, Kayoko Komatsu
2. 発表標題 The Color Arrangement Workshop: as a Method of A/r/tography
3. 学会等名 InSEA2019 World Congress, (国際学会)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Koichi Kasahara, Toshio Ishii, Takashi Takao, Satoshi Ikeda, Kayoko Komatsu, Kazuji Mogi, Minako Kayama, Kaho Kakizaki, Chihiro Tetsuko, Maho Sato.
2 . 発表標題 A/r/tographic Inquiry through Kumano Kodo Pilgrimage Trails Walking
3 . 学会等名 InSEA2019 World Congress ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Nicole Lee and Rita Irwin, Alexandra Lasczik, Joaquin Roldan and Ricardo Marin, Daniel Barney, Jun Hu, Valerie Triggs and Michele Sorenson, Anita Sinner, Koichi Kasahara and Rocio Lara-Osuna
2 . 発表標題 Mapping A/r/tography through Walking Methodologies Part 1
3 . 学会等名 InSEA2019 World Congress ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Nicole Lee, Rita Irwin, Alexandra Lasczik, Jun Hu, Koichi Kasahara, Ricardo Marin Videl, Rocio Lara-Osuna, Anita Sinner, Valerie Triggs, Michele Sorensen and Daniel Barney
2 . 発表標題 Mapping A/r/tography through Walking Methodologies Part 2
3 . 学会等名 InSEA2019 World Congress ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Koichi Kasahara, Toshio Ishii, Takashi Takao, Satoshi Ikeda, Kayoko Komatsu, Kazuji Mogi, Minako Kayama, Kaho Kakizaki, Chihiro Tetsuko, Maho Sato
2 . 発表標題 A/r/tographic Inquiry through Kumano Kodo Pilgrimage Trails Walking
3 . 学会等名 Mapping A/r/tography Retreat, ( 招待講演 ) ( 国際学会 )
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 笠原広一, 真木千壽子
2. 発表標題 大学との連携造形活動と園内研修の取り組み 1 - 保育者の学びと保育実践への展開可能性 -
3. 学会等名 日本保育学会第72回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 真木千壽子, 笠原広一
2. 発表標題 大学との連携造形活動と園内研修の取り組み 2 - 人材育成と組織づくりの視点から -
3. 学会等名 日本保育学会第72回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuji Mogi
2. 発表標題 Kumano Taisya x Norito x Omikuji.....What kind of dream do you have?
3. 学会等名 Mapping A/r/tography InSEA 2019 Exhibition (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuji Mogi, Chie Kajiwara, Hiroshi Suminaka, Soko Takemaru
2. 発表標題 Inclusive Drawing Workshop
3. 学会等名 InSEA2019 World Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木一司、多胡宏
2. 発表標題 インクルーシブ時代の視覚障害美術科教育をどうしたいのかー見える / 見えない / 見えにくい子どもを対象とした美術教材開発を目指して
3. 学会等名 第4回全国盲学校図工美術研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木一司、光島貴之、大内進、多胡宏、名取和之
2. 発表標題 視覚障害と色彩
3. 学会等名 第69回日本色彩教育研究会本部研修会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木一司、新藤健太、服部正、鈴木励滋
2. 発表標題 文化芸術における社会包摂実践の波及 終わりのない探求プロセスとしての評価を考える
3. 学会等名 令和元年度群馬大学と文化庁の共同研究事業「文化芸術による社会包摂型度の評価手法・ガイドラインの構築シンポジウム」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木一司、竹丸草子
2. 発表標題 普及支援事業と基本計画の推進のためのワークショップ
3. 学会等名 令和元年度障害者芸術文化活動普及支援事業「第3回全国連絡会議」(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木一司、竹丸草子
2. 発表標題 令和元年度障害者芸術文化活動普及支援事業「成果報告会ふりかえりワークショップ」
3. 学会等名 厚生労働省障害者芸術文化活動普及支援事業 令和元年度「成果報告会」(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 広瀬浩二郎
2. 発表標題 触文化展示の意義と方法
3. 学会等名 国立台湾歴史博物館主催「文化平權在亞洲:博物館教育新趨勢國際論壇」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kojiro Hirose
2. 発表標題 Tactile Culture in Japan
3. 学会等名 主催講演会Camberwell College of Arts(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kojiro Hirose
2. 発表標題 Hands of a Goze
3. 学会等名 主催講演会University of East Anglia(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kojiro Hirose
2. 発表標題 Universal Museum Design in Japan
3. 学会等名 催講演会Merton College, Oxford University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤亜沙
2. 発表標題 【特別講演】感覚の翻訳ー視覚障害者で行う美術鑑賞とスポーツ観戦の事例から
3. 学会等名 第45回(2019年)感覚代行シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤亜沙
2. 発表標題 見れば;見るほど見えなくなるジャコモッティ《ヤナイハラ》を徹底的に鑑賞しよう
3. 学会等名 国立国際美術館 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 布山タルト
2. 発表標題 手描きアニメーション教育と3DCGアニメーション教育の統合
3. 学会等名 日本アニメーション学会秋の研究集会
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 布山タルト
2. 発表標題 アニメーションをつくる・楽しむ・かんがえる~アニメーションを教えるためのワークショップ
3. 学会等名 横浜市中学校教育研究会美術科部会, 横浜市芸術文化振興財団
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤亜紗 x 吉川浩満
2. 発表標題 我々の体はどこから来て、どこへ行くのか - - 記憶と意志の向こう側
3. 学会等名 『記憶する体』(春秋社) 刊行記念(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤亜紗
2. 発表標題 障害者の体の記憶とは
3. 学会等名 好書好日(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤 亜紗
2. 発表標題 基調講演「目の見えない人は世界をどのように見ているのか」
3. 学会等名 令和元年度(2019年度)八王子市民フォーラム・未来を語る(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 伊藤亜紗 x 斎藤環 x 與那覇潤
2. 発表標題 当事者研究はどこへ向かうのか 身体優位の時代の先へ #2
3. 学会等名 ゲンロンカフェ（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤亜紗
2. 発表標題 利他学
3. 学会等名 WIRED UNIVERSITYの講義動画
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山城大督、北澤潤、Nadegata Instant Party(中崎 透+山城大督+野田智子)、藤浩志
2. 発表標題 ウソから出た、まこと 地域を超えていま生まれ出るアート展
3. 学会等名 十和田市現代美術館（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山城大督
2. 発表標題 山城大督個展 感覚と時と空間を旅するプログラム「パラレル・トラベル」
3. 学会等名 高鍋町美術館（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山城大督、服部浩之、辻琢磨
2. 発表標題 『U(アンダー)27プロフェッショナル育成プログラム 夏のアカデミー2019 『2052年宇宙の旅』』
3. 学会等名 あいちトリエンナーレ芸術大学連携プロジェクト(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山城大督、堀切春水
2. 発表標題 テレビ放送開始60年特別企画「KOFU RECORDS」映像ワークショップ講師
3. 学会等名 NHK甲府放送局(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木一司
2. 発表標題 インクルーシブなつながりをアートから
3. 学会等名 【招待講演】さぬき生活文化振興財団(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 茂木一司、季里、名取和幸、住中浩史
2. 発表標題 デジタル色彩教育のこれから Part3 絵本の色 デジタル×アナログ
3. 学会等名 第68回日本色彩教育研究会本部研修会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 茂木一司、吉岡洋、柳澤理子、川口淳一、朝倉由希
2. 発表標題 文化芸術による社会包摂は可能か？芸術と医療・福祉の対話と越境」(ワークショップ&シンポジウム)
3. 学会等名 平成30年度文化庁と群馬大学との共同研究事業
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 茂木一司・多胡宏・大内進
2. 発表標題 全盲児と使える図工美術題材開発の研究協力者 -視覚障害児者のためのインクルーシブ美術教育構築のために-
3. 学会等名 第41回美術科教育学会北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木一司・大内進
2. 発表標題 イタリアにおけるインクルーシブな視覚障害のための美術鑑賞
3. 学会等名 第41回美術科教育学会北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 古川聖、茂木一司、藤井晴行、川崎義博、大塚姿子、西原尚、三枝一将、園部秀穂、長尾孝治
2. 発表標題 ”サウンド ドローイング、響鳴する風景 / sounding landscape ” をめぐって
3. 学会等名 科学技術振興機構 領域開拓プログラム ” 響き合う空間、励起される美意識 ”
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kazuji Mogi
2 . 発表標題 Kumano Taisya×Norito×Omikuji.....What kind of dream do you have?
3 . 学会等名 Mapping A/r/tography InSEA 2019 Exhibition (招待講演) (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kazuji Mogi, Chie Kajiwara, Hiroshi Suminaka, Soko Takemaru
2 . 発表標題 Inclusive Drawing Workshop
3 . 学会等名 InSEA(International Society for Education through Art) 2019 Making (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Koichi Kasahara, Chihiro Tetsuko, Maho Sato, Toshio Ishii, Takashi Takao, Satoshi Ikeda, Kayoko Komatsu, Kazuji Mogi, Minako Kayama
2 . 発表標題 A/r/tographic Inquiry through Kumano Kodo Pilgrimage Trails Walking
3 . 学会等名 InSEA(International Society for Education through Art) 2019 Making (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Koichi Kasahara, Chihiro Tetsuka, Maho Sato, Satoshi Ikeda, Kazuji Mogi, Kayoko Komatsu
2 . 発表標題 The Color Arrangement Workshop: as a Method of A/r/tography
3 . 学会等名 InSEA(International Society for Education through Art) 2019 Making (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 大内進、茂木一司
2. 発表標題 ウフィッツィ美術館における視覚障害者対応の改革
3. 学会等名 第28回視覚障害リハビリテーション研究発表大会（盛岡大会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木一司、多胡宏
2. 発表標題 インクルーシブ教育時代の視覚障害美術教育をどうしたらいいのか 見える/見えない/見えにくい子どもを対象にした中学校の美術教材開発を旨として
3. 学会等名 第4回全国盲学校図工美術研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木一司、多胡宏、前島芳雄
2. 発表標題 共生社会を支える障害のあるひとの表現活動を考える
3. 学会等名 「麦わら屋の作家たち展」開催記念イベントシンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木一司、竹丸草子
2. 発表標題 普及支援事業と基本計画の推進のためのワークショップ
3. 学会等名 令和元年度障害者芸術文化活動普及支援事業「第3回全国連絡会議」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大内 進、大内紀彦、藤原紀子
2. 発表標題 イタリアにおける視覚障害者の美術鑑賞への取組
3. 学会等名 第27回 視覚障害リハビリテーション研究発表大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺哲也、大内 進
2. 発表標題 視覚障害教育における3Dプリンタの活用ー利用状況と活用実践ー
3. 学会等名 第60回弱視教育研究全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大内 進、山田 毅、若井広太郎、藤島瑠利子、香川邦生、飯島啓太
2. 発表標題 特別支援学校のセンター的機能の評価を考える
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 金子 健、澤田真弓、大内 進、土井幸輝、西村崇宏
2. 発表標題 特別支援学校（視覚障害）在籍の重複障害幼児児童生徒に関する実態調査
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西村崇宏、土井幸輝、澤田真弓、金子 健、大内 進
2. 発表標題 弱視特別支援学級及び弱視通級指導教室における弱視児童生徒の在籍状況と指導の実態
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小澤至賢、大内 進
2. 発表標題 スクールクラスターの構築に向けた特別支援学校の学校間マネジメントに関する研究 - 特別支援学校を対象としたアンケート調査から
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大内 進
2. 発表標題 手と目でみる絵画の可能性
3. 学会等名 関東地区視覚障害教育研究会美術・図工部会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 茂木一司、多胡 宏、大内 進
2. 発表標題 触察の基礎知識
3. 学会等名 第41回美術科教育学会北海道大会インクルーシブ研究会2019
4. 発表年 2019年



1. 発表者名 大内 進
2. 発表標題 視覚障がい教育における『主体的・対話的で深い学び』を実現するための授業づくり
3. 学会等名 【招待講演】令和元年度中国・四国地区盲学校教育研究大会鳥取大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 多胡 宏・大内 進
2. 発表標題 視覚障害児の色彩教育：実践と活動
3. 学会等名 第69 回日本色彩教育研究会本部研修会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大内 進
2. 発表標題 3Dプリンターを活用した触覚教材製作の現状と課題
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57 回大会自主シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大内 進
2. 発表標題 特別支援学校のセンター的機能の評価の在り方を考える - センターの機能の評価を積極的に実施している特別支援学校への実態調査を通して -
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57 回大会自主シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小澤至賢・大内 進
2. 発表標題 スクールクラスターの構築に向けた特別支援学校の学校間マネジメントに関する研究
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 広瀬浩二郎
2. 発表標題 【招待講演】触文化展示の意義と方法
3. 学会等名 国立台湾歴史博物館主催「文化平權在亞洲：博物館教育新趨勢國際論壇」（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Kojiro Hirose
2. 発表標題 【招待講演】Tactile Culture in Japan
3. 学会等名 主催講演会Camberwell College of Arts (招待講演) (國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kojiro Hirose
2. 発表標題 【招待講演】Hands of a Goze
3. 学会等名 主催講演会University of East Anglia (招待講演) (國際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kojiro Hirose
2. 発表標題 【招待講演】Universal Museum Design in Japan
3. 学会等名 主催講演会Merton College, Oxford University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 廣瀬浩二郎
2. 発表標題 「合理的配慮」再考 - 2020オリパラを迎えるに当たって -
3. 学会等名 日本特殊教育学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 廣瀬浩二郎
2. 発表標題 「合理的配慮」再考
3. 学会等名 公開シンポジウム「日本におけるユニバーサル・ミュージアムの現状と課題 2020オリパラを迎える前に」ユニバーサル・ミュージアム研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hirose Kojiro
2. 発表標題 【招待講演】多様な人々の博物館利用 視覚障害者のアクセシビリティ向上を考える
3. 学会等名 龍山工芸館・大韓民国 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hirose Kojiro
2. 発表標題 【招待講演】The Universal Museum Makes a world without Borders
3. 学会等名 ミシガン大学（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hirose Kojiro
2. 発表標題 【招待講演】Significance and Methods of the Tactile Culture Exhibition
3. 学会等名 ミシガン州立大学博物館（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊藤亜紗
2. 発表標題 「バロックっぽさとは？」
3. 学会等名 第1回 ぽさ研（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤亜紗
2. 発表標題 【招待講演】視覚なしで世界を見てみよう
3. 学会等名 桐光学園講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤亜紗
2. 発表標題 【招待講演】体の違いを映す言葉
3. 学会等名 第44回「日本コミュニケーション障害学会」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤亜紗
2. 発表標題 【招待講演】視覚なしで見る世界
3. 学会等名 日本学術振興会シリコン超集積システム第165委員会「クルマから考えるAI, IoT と ヒトの関係」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤亜紗
2. 発表標題 【招待講演】運動を生み出す運動
3. 学会等名 建築情報学会キックオフ準備会議第3回「感性の計算 世界を計算的に眺める眼差し」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤亜紗
2. 発表標題 私たちは日常空間をどのようにとらえているか
3. 学会等名 日常を見限らない 音と身体ワークショップ・生活工房(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤亜紗
2. 発表標題 【招待講演】見えることはアドバンテージ？
3. 学会等名 おおたじんけんカフェ・大田区消費者生活センター（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Asa Ito
2. 発表標題 【招待講演】Disabled person's interaction with objects and self-governance
3. 学会等名 CripTech: Disability and Technology in Japan and the United States（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤亜紗
2. 発表標題 視覚なしで見るスポーツ
3. 学会等名 パラスポーツとともに歩む先端技術・日本財団（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 伊藤亜紗
2. 発表標題 【特別講演】感覚の翻訳ー視覚障害者で行う美術鑑賞とスポーツ観戦の事例から
3. 学会等名 第45回（2019年）感覚代行シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 布山タルト
2. 発表標題 図工・美術教育のためのアニメーション指導モデルの試案
3. 学会等名 20回日本アニメーション学会大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 布山タルト
2. 発表標題 アニメーション題材の複合的なねらいを解きほぐす
3. 学会等名 第41回美術科教育学会北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 布山タルト
2. 発表標題 手描きアニメーション教育と3DCGアニメーション教育の統合
3. 学会等名 日本アニメーション学会秋の研究集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 布山タルト
2. 発表標題 アニメーションをつくる・楽しむ・かんがえる～アニメーションを教えるためのワークショップ
3. 学会等名 横浜市中学校教育研究会美術科部会， 横浜市芸術文化振興財団
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoshi Ikeda
2. 発表標題 Art for disabled children
3. 学会等名 InSEA Regional Conference 2018
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田 史志、大江 登美子、北島 珠水、柴田 洋佑、高橋 智子
2. 発表標題 インクルーシブ教育システムにおける美術(2) - 複数校種等での同一題材実施による学習/指導の連続性の検討 -
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田 史志
2. 発表標題 障害のある人の文化芸術活動とその支援の国内・外の現状と課題
3. 学会等名 アートは生活と社会を変える！シンポジウムとワークショップ
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田 史志
2. 発表標題 境界から滅境へ：共存に関する一考察
3. 学会等名 Mapping A/r/tographyの実践研究
4. 発表年 2018年



1. 発表者名 池田 史志
2. 発表標題 障害のある人・障害のある人のアートをサポートする人のためのワークショップ
3. 学会等名 広島県平成30年度障害者芸術文化活動支援事業
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田 史志
2. 発表標題 あいサポートアート展ギャラリートーク
3. 学会等名 平成30年度広島県あいサポート展
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 池田 史志、大江 登美子、北島 珠水、柴田 洋佑、高橋 智子
2. 発表標題 共生社会の実現を目指す複数校種等での同一題材実施プロジェクト
3. 学会等名 第41回美術科教育学会北海道大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田史志
2. 発表標題 聴覚障害のある留学生とのアートを通じた交流プログラムの開発
3. 学会等名 日本特殊教育学会 第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 竹林地毅、池田史志、長津結一郎、北村成美、北島珠水
2. 発表標題 障害のある人の芸術活動 - 出会い・つながり・新しい価値の創造の現状と特別支援教育の課題
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会準備委員会企画シンポジウム
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田史志
2. 発表標題 障害者による文化芸術活動の推進に関する基本計画を読む
3. 学会等名 広島県あいサポートアート展特別イベントシンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田史志
2. 発表標題 障害のある方・障害のある方のアートをサポートされている方のための2019ワークショップ Discovery
3. 学会等名 令和元年度広島県障害者芸術文化活動支援事業（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 池田史志
2. 発表標題 あいサポートアート展ギャラリートーク
3. 学会等名 令和元年度広島県あいサポートアート展
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoshi Ikeda
2. 発表標題 Eliminate boundaries: Inquiry regarding tolerant inclusion
3. 学会等名 Mapping A/r/tography InSEA 2019 Exhibition (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Satoshi Ikeda
2. 発表標題 Walking as a catalyst to create questions: Inquiry regarding tolerant inclusion
3. 学会等名 Mapping A/r/tography InSEA 2019 Exhibition (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笠原広一
2. 発表標題 Arts-Based Research関連文献について
3. 学会等名 第一回ABR科研研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 笠原広一
2. 発表標題 Mapping A/r/tography in Tokyo
3. 学会等名 Mapping A/r/tographyの実践研究：第二回ABR科研研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 笠原広一
2. 発表標題 Mapping A/r/tography in KUMANO KODO Trail
3. 学会等名 第三回ABR科学研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 笠原広一
2. 発表標題 Arts Based Researchによる芸術を基盤とした探究型学習理論の構築に向けた取り組み：学部大学院での試行的実践
3. 学会等名 福岡教育大学研究交流イベント講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Koichi Kasahara
2. 発表標題 Art Education in Japan and A/r/tographic Inquiry at Master 's level Perspectives from Tokyo Gakugei University
3. 学会等名 Sharing day with Tokyo Gakugei University visitors. Hosted by the Arts-Creativity-Education, Monash University（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 小林俊介, 伊藤香, 高橋美紀, 井上七緒, 武田夏実, 工藤美月, 佐藤美咲, 張崎正裕, 石沢恵理, 笠原広一
2. 発表標題 造形・製作活動が育む力
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会第29回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koichi Kasahara
2. 発表標題 Significant In/Sight Sustaining Myself: A/r/tographic Inquiry with Walking and Mapping Methodologies. Imaging Social Innovation: Expanding the Social Role of Art Education
3. 学会等名 2019 SAEK International Conference. Hanyang University, Seoul, Korea (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koichi Kasahara
2. 発表標題 Walking in Koyasan the Holy Site: The Creation of Practices to Connect with Peace and Fate in Everyday Life
3. 学会等名 The 2nd A/r/tography Asian Symposium, Hangzhou Normal University, Hangzhou, China (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nicole Lee and Rita Irwin, Alexandra Lasczik, Joaquin Roldan and Ricardo Marin, Daniel Barney, Jun Hu, Valerie Triggs and Michele Sorenson, Anita Sinner, Koichi Kasahara and Rocio Lara-Osuna.
2. 発表標題 Mapping A/r/tography through Walking Methodologies Part 1. International Society for Education Through Art
3. 学会等名 InSEA2019 World Congress
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koichi Kasahara
2. 発表標題 Present and future places of arts-based research within the current educational reform in Japan
3. 学会等名 The 6th Conference on Arts-Based Research and Artistic Research, British Columbia University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koichi Kasahara, Toshio Ishii, Takashi Takao, Satoshi Ikeda, Kayoko Komatsu, Kazuji Mogi, Minako Kayama, Kaho Kakizaki, Chihiro Tetsuko, Maho Sato
2. 発表標題 A/r/tographic Inquiry through Kumano Kodo Pilgrimage Trails Walking
3. 学会等名 Mapping A/r/tography Retreat, British Columbia University (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笠原広一, 真木千壽子
2. 発表標題 大学との連携造形活動と園内研修の取り組み 1 - 保育者の学びと保育実践への展開可能性 -
3. 学会等名 日本保育学会第72回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 真木千壽子, 笠原広一
2. 発表標題 大学との連携造形活動と園内研修の取り組み 2 - 人材育成と組織づくりの視点から -
3. 学会等名 日本保育学会第72回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 茂木一司
2. 発表標題 視覚障害のためのインクルーシブアート学習の理念と教材開発
3. 学会等名 第60回大学美術教育学会山形大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 茂木一司
2. 発表標題 視覚障害のためのインクルーシブアート教育:理念と教材開発
3. 学会等名 第44回美術科教育学会東京大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 井上昌樹・郡司明子・茂木一司
2. 発表標題 図工美術科教育でプログラミング育は可能かー身体性に目して
3. 学会等名 第44回美術科教育学会東京大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 茂木一司・石田智哉・森田かずよ
2. 発表標題 Keynote.2 多様性と美術教育:障害×アートが拓く身体の学びの可能性
3. 学会等名 第44回美術科教育学会東京大会 基調対談Keynote:社会の変化、アートの変容、美術教育はどこへ(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤亜紗、広瀬浩二郎、大内進、茂木一司
2. 発表標題 分けないと多様性-視覚障害のためのインクルーシブアート教育とは何か
3. 学会等名 『視覚障害のためのインクルーシブアート学習』出版記念トークイベント
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 多胡宏、栗田晃宜、山中由美子、茂木一司
2. 発表標題 子どもが主体的に学ぶ視覚障害支援美術教育の実践とはどういうものか?-インクルーシブ教育時代の視覚障害美術教育の現状とこれから
3. 学会等名 『視覚障害のためのインクルーシブアート学習』出版記念トークイベント
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 布山タルト、松本祐一、山城大督、大内進、茂木一司
2. 発表標題 支援から主体的に変えるICT×身体メディアの学習は可能か?-インクルーシブ教育時代の新しい表現と学び
3. 学会等名 『視覚障害のためのインクルーシブアート学習』出版記念トークイベント
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 広瀬浩二郎、桑田知明、齋藤名穂、茂木一司
2. 発表標題 視覚障害が社会を変えるインクルーシブデザインプロジェクト
3. 学会等名 『視覚障害のためのインクルーシブアート学習』出版記念トークイベント
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 広瀬浩二郎
2. 発表標題 基調講演「ユニバーサル・ミュージアムとは何か」
3. 学会等名 日本福祉のまちづくり学会大会(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 広瀬浩二郎
2. 発表標題 全体会議「盲学校教育から生まれた触文化論の未来」
3. 学会等名 全日本盲学校教育研究大会(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 広瀬浩二郎
2. 発表標題 教育講演「特別展『ユニバーサル・ミュージアム』の趣旨と概要」
3. 学会等名 日本特殊教育学会大会(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 広瀬浩二郎
2. 発表標題 コロナ禍と博物館展示
3. 学会等名 比較文明学会関西例会(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 広瀬浩二郎
2. 発表標題 基調講演「ユニバーサル・ミュージアムにおける異文化間コミュニケーションの可能性」
3. 学会等名 言語管理研究会(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 手塚千尋, 岩永啓司, 根本淳子, 吉川暢子
2. 発表標題 教員養成系大学間によるアートプロジェクト型カリキュラムの開発1
3. 学会等名 第44回美術科教育学会東京大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉川暢子, 岩永啓司, 手塚千尋, 根本淳子
2. 発表標題 教員養成系大学間によるアートプロジェクト型カリキュラムの開発2
3. 学会等名 第44回美術科教育学会東京大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 笠原広一
2. 発表標題 子どものワークショップの体験理解-関与観察とエピソード記述による質的研究から-
3. 学会等名 造形教育センター2021年6月 月例研究会(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 笠原広一
2. 発表標題 アートベースの探求-コロナ禍の中での学部・大学院での実践から-
3. 学会等名 造形教育センター2021年6月 月例研究会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Koichi Kasahara
2. 発表標題 Arts-Based Research and A/r/tography Practice in Teacher Training Course in Japan: Focusing on the Practices in the Post-Corona Era
3. 学会等名 Korea Art Education Association(招待講演)(国際学会)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 笠原広一、和久井智洋、池田晴介、小島菜緒子、齊藤諒、井上扇里
2. 発表標題 アートと言葉のワークショップ実践-オンライン・ワークショップを通じた可能性の探求-
3. 学会等名 アートミーツケア学会2021年度大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 笠原広一
2. 発表標題 ワークショップの体験理解: アートと関与しつづの観察
3. 学会等名 九州大学人間環境学府多分野連携プログラム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 笠原広一
2. 発表標題 アートベースの実践と探究がひらくもの
3. 学会等名 初等教育カリキュラム学会 第6回大会(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 布山タルト
2. 発表標題 アニメーション教育とスポーツ教育の領域横断についての一考察
3. 学会等名 日本アニメーション学会第23回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 布山タルト
2. 発表標題 アニメーションをつくる・楽しむ・かんがえる
3. 学会等名 横浜市中学校美術科研修(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 布山タルト
2. 発表標題 アニメーション・映像と教育
3. 学会等名 第60回大学美術教育学会山形大会(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 布山タルト
2. 発表標題 アニメーションにおける動きの表現探求ツールの開発
3. 学会等名 美術科教育学会東京大会第44回
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山城大督
2. 発表標題 作品「VIDEO LECTURES」
3. 学会等名 京都芸術大学教員展「For the next decade 少し未来の芸術の未来」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山城大督
2. 発表標題 オンライン映像ワークショップ; 「YOUR VIDEO」
3. 学会等名 国立国際美術館 特別展 Viva Video! 久保田成子展(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山城大督、中崎透、野田智子
2. 発表標題 作品 Ndegata Instant Party「ホームステイホーム」
3. 学会等名 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 企画展覧会「丸亀での現在」(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山城大督、八木良太
2. 発表標題 作品「Sensory Media Laboratory」
3. 学会等名 THEATRE E9 KYOTO 八木良太 山城大督 2/9 「Sensory Media Laboratory」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊藤亜紗
2. 発表標題 『文学としての人文知』第5回「身体論の展開」
3. 学会等名 日本フランス語フランス文学会(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤亜紗, 苫野一徳
2. 発表標題 「ちくまQボックス」伊藤亜紗さん×苫野一徳さんが中高生に伝える「なぜ」との向き合い方
3. 学会等名 「ちくまQボックス『きみの体は何者か』・『未来のきみを変える読書術』(筑摩書房)刊行記念 伊藤亜紗さん×苫野一徳さんトークイベント;自分の問いに向き合う」(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤亜紗
2. 発表標題 ケアをする手
3. 学会等名 シンポジウム: 我に触れよ: コロナ時代に修復を考える(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤亜紗×TaiTan×山縣良和
2. 発表標題 体の言い分に耳を傾ける
3. 学会等名 『きみの体は何者か-なぜ思い通りにならないのか?』(筑摩書房)刊行記念(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 福岡伸一、伊藤亜紗、白井智子、鈴木暁子
2. 発表標題 教育とケアから考える利他
3. 学会等名 朝日地球会議2021 × CGP(招待講演) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤亜紗
2. 発表標題 ケアと芸術
3. 学会等名 美学会第72回大会(招待講演) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池田史志
2. 発表標題 重度・重複障害児からアートとスポーツの根源を考える-遊戯論を視座として
3. 学会等名 芸術学関連学会連合第15回公開シンジウム『芸術とスポーツ』(招待講演) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Satoshi Ikeda
2. 発表標題 An arts-based exchange program for international students with hearing disabilities
3. 学会等名 InSEA Europe 2021, Baeza(国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池田史志、川尻博満、小川ひろみ、平澤美佐、福田浩子、森万由子、保田香織、鱈川華衣、竹林地毅、児玉真樹子
2. 発表標題 アートと共生に関する調査および施策一体型プロジェクト:自治体・大学・美術館・NPOの連携による包括的実践研究開発
3. 学会等名 日本特殊教育学会第59回大会(国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 横山由季、池田史志、若松昭彦
2. 発表標題 A/r/tographyによる知的障害のある児童の探究過程の考察
3. 学会等名 日本特殊教育学会第59回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 池田史志
2. 発表標題 一人一人の表現を大切にする授業実践へ:児童生徒の意欲を高め能力を発揮できる造形活動の授業づくり
3. 学会等名 徳島県立鴨島支援学校研修会(招待講演) (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Satoshi Ikeda
2. 発表標題 Toward social inclusion: What can art education contribute?/International Society of Education Through Art
3. 学会等名 1st Asian Webinar: Inclusive art education in Asia(招待講演)(国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 池田史志
2. 発表標題 特別支援学校等卒業後の障害のある人・サポートする人のアート活動に関する実態調査
3. 学会等名 第44回美術科教育学会東京大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 荒井裕樹、池田史志、手塚千尋
2. 発表標題 美術教育は障害学とどのように向き合うか:障害者運動とアート
3. 学会等名 第44回美術科教育学会東京大会インクルーシブ教育部会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 貞末 麻哉子、水野 英尚、宮本 聡、三好 剛平
2. 発表標題 アフタートーク「日常を表現する」
3. 学会等名 福岡市文化芸術財団主催「ドキュメンタリー映画:普通に死ぬ~いのちの自立~」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮本聡
2. 発表標題 アート・モノと特別支援教育
3. 学会等名 糸島ラボラトリースクール研究会「特別支援学校の『環境』を再考する」(招待講演)(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大内進
2. 発表標題 イタリアにおける2019-2020学校年度のインクルーシブ教育の動向
3. 学会等名 第18回日伊総合研究所研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大内進
2. 発表標題 視覚障害分野で;の3Dプリンター活用の動向
3. 学会等名 視覚障害リハビリテーション協会研究発表大会in岡山
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計27件

1. 著者名 図画工作科・美術科教育法研究会編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 建帛社	5. 総ページ数 203
3. 書名 図画工作科・美術科教育法	

1. 著者名 広瀬浩二郎	4. 発行年 2020年
2. 出版社 伏流社	5. 総ページ数 286
3. 書名 触常者として生きる-琵琶を持たない琵琶法師の旅	

1. 著者名 大阪大学COデザインセンター、八木絵香、水町衣里	4. 発行年 2019年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 220
3. 書名 対話で創るこれからの「大学」	

1. 著者名 広瀬浩二郎	4. 発行年 2019年
2. 出版社 食品産業新聞社	5. 総ページ数 156
3. 書名 おいしいはおもしろい - ニッポンの食をささえる素敵な会社	

1. 著者名 笠原広一（編）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京学芸大学出版会	5. 総ページ数 222
3. 書名 アートがひらく保育と子ども理解：多様な子どもの姿と表現の共有を目指して	

1. 著者名 伊藤 亜紗	4. 発行年 2019年
2. 出版社 春秋社	5. 総ページ数 280
3. 書名 記憶する体	

1. 著者名 渡邊淳司、伊藤 亜紗、ドミニック・チェン	4. 発行年 2019年
2. 出版社 NTT出版	5. 総ページ数 184
3. 書名 情報環世界	

1. 著者名 伊藤亜紗	4. 発行年 2019年
2. 出版社 河出書房	5. 総ページ数 133
3. 書名 横浜美術館30周年記念 美術でつなぐ人とみらい	

1. 著者名 十和田市現代美術館、山城大督他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 堀之内出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 地域アートはどこにある?	

1. 著者名 茂木一司編集代表、住中浩史、春原史寛、中平紀子、Nプロジェクト編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 264
3. 書名 とがびアートプロジェクト	

1. 著者名 嶺重 慎、広瀬 浩二郎、村田 淳、京都大学学生総合支援センター	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 288
3. 書名 知のスイッチ	

1. 著者名 茂木一司、住中浩史、春原史寛、中平紀子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 304
3. 書名 新版増補 とがびアートプロジェクト	

1. 著者名 笠原広一（編）、鉄矢悦朗、真木千壽子、山本一成、小室明久、加山総子、平田智久、磯部錦司、森真理、伊藤裕子、吉川暢子、要真理子、栗山誠、高橋敏之、東南さゆり。	4. 発行年 2019年
2. 出版社 東京学芸大学出版会	5. 総ページ数 222
3. 書名 アートがひらく保育と子ども理解：多様な子どもの姿と表現の共有を目指して	

1. 著者名 茂木 一司、大内 進、多胡 宏、広瀬 浩二郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ジアース教育新社	5. 総ページ数 376
3. 書名 視覚障害のためのインクルーシブアート学習	

1. 著者名 伊藤 亜紗、中島 岳志、若松 英輔、國分 功一郎、磯崎 憲一郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 224
3. 書名 「利他」とは何か	

1. 著者名 伊藤 亜紗	4. 発行年 2021年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 96
3. 書名 きみの体は何者か	

1. 著者名 伊藤 亜紗	4. 発行年 2020年
2. 出版社 講談社	5. 総ページ数 224
3. 書名 手の倫理	

1. 著者名 福岡 伸一、伊藤 亜紗、藤原 辰史	4. 発行年 2021年
2. 出版社 集英社	5. 総ページ数 240
3. 書名 ポストコロナの生命哲学	

1. 著者名 伊藤亜紗、渡邊淳司、林阿希子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 晶文社	5. 総ページ数 312
3. 書名 見えないスポーツ図鑑	

1. 著者名 国立民族学博物館、広瀬 浩二郎	4. 発行年 2021年
2. 出版社 小さ子社	5. 総ページ数 248
3. 書名 ユニバーサル・ミュージアム	

1. 著者名 広瀬浩二郎、日比野尚子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 偕成社	5. 総ページ数 12
3. 書名 てんじつきさわるえほん 音にさわる	

1. 著者名 日本色彩研究所、日本色彩教育研究会色彩ワークショップ制作（代表 茂木一司）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 色彩ワークショップ（しる・みる・つかうシリーズ）	5. 総ページ数 36
3. 書名 色彩ワークショップ	

1. 著者名 笠原広一・小松佳代子・生井亮司・茂木一司・池田史志・手塚千尋・森本謙・佐藤真帆・胡俊・丁佳楠・会田憧夢	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学術研究出版	5. 総ページ数 252
3. 書名 アートベース・リサーチがひらく教育の実践と理論(ABRから始まる探究(1) 高等教育編)	

1. 著者名 笠原広一・池田史志・手塚千尋・和久井智洋・吉川暢子・森本謙・加山総子・池田晴介・和田賢征・丁佳楠・岩永啓司・小室明久・佐藤真帆・生井亮司・栗山由加・櫻井あすみ・フェルナンド F フェルナンデス	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学術研究出版	5. 総ページ数 299
3. 書名 子どもの表現とアートベース・リサーチの出会い(ABRから始まる探究(2)初等教育編)	

1. 著者名 石川吉典、野田智子編著、山城大督他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Twelve Inc.	5. 総ページ数 114
3. 書名 「AICHI ONLINE」記録集	

1. 著者名 里見喜久夫	4. 発行年 2021年
2. 出版社 青土社	5. 総ページ数 240
3. 書名 障害をしゃべろう! 上	



1. 著者名 米田宏樹、川合紀宗編著、一木薫、池田更志、氏間和仁、竹田一則他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 協同出版	5. 総ページ数 243
3. 書名 新・教育課程演習第6巻 特別支援教育	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>モギカズジのホームページ  <a href="http://moka7887.p2.bindsite.jp/w1docs/index.html">http://moka7887.p2.bindsite.jp/w1docs/index.html</a>  ResearchMap茂木一司  <a href="https://researchmap.jp/read0017603">https://researchmap.jp/read0017603</a>  学びと共生社会 &lt;Vol.26&gt; 教科教育とインクルーシブ教育(2) <a href="https://www.nichibun-g.co.jp/data/web-magazine/manabito/inclusive/inclusive026/">https://www.nichibun-g.co.jp/data/web-magazine/manabito/inclusive/inclusive026/</a>  学びと共生社会 &lt;Vol.27&gt; 教科教育とインクルーシブ教育教育(3)  <a href="https://www.nichibun-g.co.jp/data/web-magazine/manabito/inclusive/inclusive027/?fbclid=IwAR2DJfAN31hYa1jB6EovgY9ISpEzAZfN0xM9GcLqveyNqbKD6KAtIEZwte0">https://www.nichibun-g.co.jp/data/web-magazine/manabito/inclusive/inclusive027/?fbclid=IwAR2DJfAN31hYa1jB6EovgY9ISpEzAZfN0xM9GcLqveyNqbKD6KAtIEZwte0</a></p>
---

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	布山 毅 (Fuyama Tsuyoshi) (10336654)	東京藝術大学・大学院映像研究科・教授  (12606)	
研究分担者	廣瀬 浩二郎 (Hirose Kojiro) (20342644)	国立民族学博物館・グローバル現象研究部・准教授  (64401)	
研究分担者	伊藤 亜紗 (Ito Asa) (20701618)	東京工業大学・科学技術創成研究院・准教授  (12608)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	手塚 千尋  (Tetsuka Chihiro)  (20708359)	明治学院大学・心理学部・講師    (32683)	
研究分担者	大内 進  (Ouchi Susumu)  (40321591)	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所・その他部局等・特任研究員    (82705)	
研究分担者	笠原 広一  (Kasahara Koichi)  (50388188)	東京学芸大学・教育学部・准教授    (12604)	
研究分担者	池田 更志  (Ikeda Satoshi)  (80610922)	広島大学・教育学研究科・准教授    (15401)	
研究分担者	山城 大督  (Yamashiro Daisuke)  (90882415)	京都芸術大学・芸術学部・講師    (34319)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関